

支那國民を觀察するの點よりいふときは、毫も價値なきものなり。

支那國民

支那文明史論

凡そ一國の大人物大思想なるものは其國民を代表したるものに外ならず。孔子の卓絶圓滿なる品性を知らんと欲せば。支那國民の特性を知らざる可らず。朱子の博大精緻なる思想を知らんと欲せば。支那國民の思想を知らざる可らず。且つ孔子を知るは支那國民の特性を知らんが爲めなり。朱子を知るは支那國民の思想を知らんが爲めなり。然るに從來の漢文學者は個人と國民との間に於けるの關係に着眼せざりしは。是れ豈に一大缺點に非ずや。

第二從來の漢文學者は支那の古代に明かにして近世の事に明かならざるなり。夫れ漢文學者の目的をして單に支那の古文を研究するにあらしめば吾人之れを知らずと雖ども。若し其目的をして支那國民を觀察するにあらしめば最も近世の事に着眼せざる可からざるを信す。支那の政治を講ずるものは秦漢の制度は之を知ると雖ども。清朝今日官制の組織の如きは之を知らず。學術を講ずるもの宋學道統の傳は之を知ると雖も。清朝今日學派の源流の如きは之を知らず。歴史を講ずるもの唐宋已上の事實は之を詳にすと雖ども。清朝歴史の最大なる事實。即ち康熙乾隆二帝は如何なる政略を以て支那を統治したるや。長髮賊の亂は滿漢の勢力をして如何に消長進退せしめたるやと云ふ如き事實すら之を詳らかにせず。此の如くして支那歴史を研究したりと謂ふを得べきか。

支那國民

現時我國に於ける漢文學の研究法を一變し

かならざるなり。例へば經學を講ずる者は四書に通するも六經に明かならず。宋學に達するも漢學に達せず。文學を講ずる者唐宋以下の文章を誦して秦漢以上の文章を誦せず。史學を講ずる者出來事イブツに明かなるも制度イソクキョウシヨクに明かならず。政治を知るも社會を知らざるか如きは。其一部の研究に精密なるは比例して全體の研究に粗鹵なる實に驚くべきものなり。故に彼等の支那文學に於けるの研究は。數年若しくは數十年の時間を費し。腦力を費したる割合には其利益あるを見ざるなり。此の如きは畢竟するに研究法の其宜しきを得ざるにあるのみ。依て吾人は左の如く漢文學研究法を一變するの新案を示すべし。

文學

凡そ從來支那文學を學はんと欲するものは。文章軌範、唐宋八大

家文を誦讀するを通例とすれども。是れ僅かに支那文學の一部を窺ふに過ぎざるのみ。今若し支那文學の全體に通せんとするものは。先づ左の二書を読むべし。

文心雕龍

此の書を一讀するときには。紀事、議論の諸體及び文章の格法を知るべし。古來支那の文學總論にして此の書の如く簡括なるものはあらず。

文藝志傳三十三史

凡司馬遷の史記、已下元、明諸史に至るまで。其名目は異同あり。雖ども。歷朝の史必ず文藝に關するの志若しくは傳ありて。一代の文學を詳録せざるはなし。而して今此志傳を別抄して一部の文學史とするときは。支那文學の變遷を知るに最も妙なり。

古文辭類纂

此書は歷代の古文を編纂したるものにして。之を唐宋八家文若しくは文章軌範の僅かに唐宋一派の文章を収録したるもの比すれば。最も今日我邦人の支那文學の全体を研究するの目的に適合するものなり。故に予は窃かに此の書を以て唐宋八家文讀本。文章軌範の二書に代へんと欲するなり。

史學

從來我邦の漢文學者が支那史を研究するものは左傳史記及び十八史略の類なりとす。是れ等の歴史は決して善らざるにあらずと雖ども。支那古今の歴史により文化の發達を審かにせんとするものは。此順序にては不可なりとす。

通鑑輯覽

此史は支那の普通史にして。上は三皇五帝より下は明朝に至り。簡にして略ならず。詳にして蕪ならず。十八史略通鑑覽要綱鑑易知錄と同日の論に非ざるなり。故に予は之れを以て支那史を研究するの第一着歩とせんとするなり。

歷代地理沿革圖

地理韻編今釋

凡そ歴史を讀むには地理を明かにするの必要あること論を待たず。而して支那の歴史地理は。歷朝の疆域地名と今日の疆域地名と對照比較したるものに非ざれば有益とせず。即ち此類の地圖及び地志は獨り以上二書あるのみ。

劉氏史通
杜氏典史

史通は支那歴史の体裁及び其長短得失に關するの總論たるを以て。史學を研究するものは必ず此書を以て之が入門とせざるべからず。通典は歷代制度の變遷沿革を述べたるものにして此書を読まざれば支那國家の成立及び組織を知ること能はざるなり。

以上の諸書一讀して支那史學の基礎を築きたる上は司馬氏の資治通鑑をも閲讀すべし。二十二史をも涉獵すべし。事實を知る愈々博きに隨て識見も亦愈々進むべし。

經學

經學に三派あり。曰く漢學、曰く宋學、曰く清學、漢學は訓詁を主とし。宋學は義理を主とし。清學は考証を主とす。漢訓詁の學は注釋的經學なり。宋義理の學は哲理的經學なり。清考證の學は比較的經

學なり。然れども考證は其實注釋の範圍を一層擴張したるものに過ぎず。故に清人は漢清二學を區別せずして。唯た漢宋二學と並稱するなり。

漢學記

伊洛淵源錄

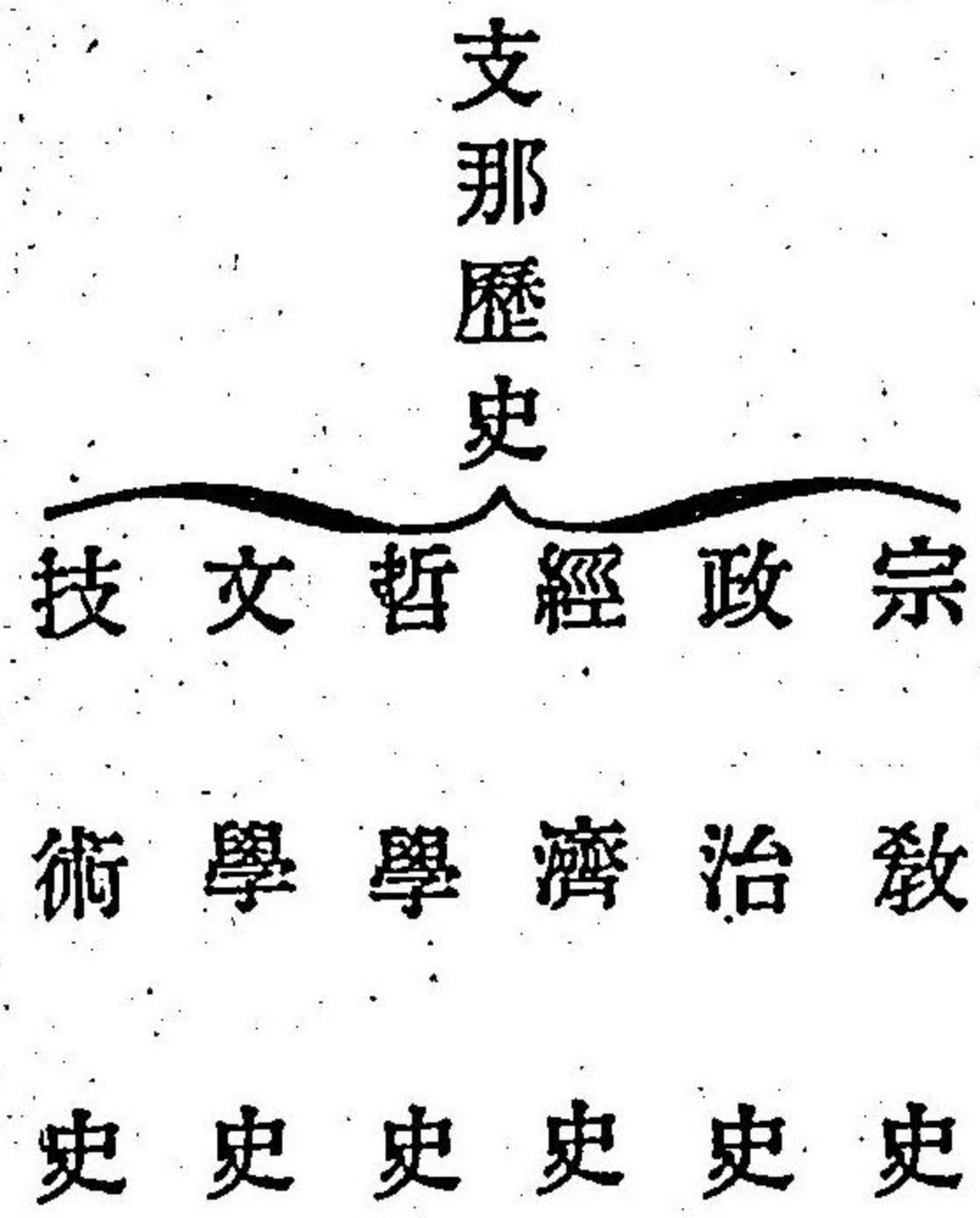
漢學記は漢學派の師傳を見るべく。伊洛淵源錄は宋學の傳統を見るべし。故に此の二書は經學を研究するものにありては。是非一讀せざる可らざるの書なり。

漢學を主とするものは。儒教の經典を其適當の義に解釋するにあり。宋學を主とするものは。儒教經典の義理を總括して其統系を明にするにあり。

然れども是れ唯だ吾人が現時其邦に於ける漢文學の講究法を

讀書上より一變せんと試みたるものに過ぎざるなり。若し、一歩進んで、吾人の希望を言はしめんか。吾人は今日の漢文學を盡く、歴史的研究法に改めんことを欲するなり。然らば如何にして歴史的研究に改む可きか。即ち希望する所は完全なる支那歴史を編纂せんことを欲するなり。

今其歴史の編纂に關して、吾人の意見一二を陳れば左の如し。



儒教 拜自然教の起原。孔夫子の生涯。儒教の組織。漢學即ち注釋家。儒教と佛老二教との關係。宋學即ち性理家。儒教と國家との關係。儒教と社會との關係。儒教と科學との關係。道教 黃老の學。方士、道士の起原。道教と佛教との衝突。道教と國家との關係。道教の要素及發達。道教に關する各種の統計。

佛教 佛教の東漸。經典の翻譯。各宗派の起原。佛教が支那國民に及ぼしたる精神上の感化。物質上の影響。印度、支那宗

二百四

教上の交通。佛教と儒老二教の關係。佛教が支那に同化せら
 たるの結果。各宗派の盛衰。唐朝の佛教。元朝の佛教。清朝
 の佛教。佛教に關する歷朝の統計。
 耶教。唐朝の景教。明末の天主教。耶教と佛教との衝突。耶
 教徒が支那に輸入したる文化。耶教と長髮賊。現時に於ける
 耶教の勢力及歷朝の統計。
 政治史。支那國家の起源。漢族革命の思想。夏殷周三代の法
 制。周より戰國に至るの經過。秦朝の一統及大改革。漢朝の
 建設。北方種族侵入。南朝北朝の分裂及之より生じたる結果。
 隋朝の統一。唐朝文化の要素。宋朝文化の要素。金元二朝の
 建設。元朝の統一。明朝文化の要素。清朝の起源。康熙乾隆
 二帝の政略。滿漢二族の勢力。長髮賊の亂支那國民の依て繼

二百五

續し擴張するの勢力。
 經濟史。太古より周朝に至る迄工、商業の發達。周の法制と國
 家經濟との關係。戰國富強の策。秦朝の統一と國富發達との
 關係。漢朝の重農主義。漢朝平準均輸の諸法。秦漢の貨幣制
 度。南北朝の奢侈と民力との關係。唐朝の國家經濟。唐朝工
 業技術の發達。宋朝の富國策。元朝運輸交通の諸大工業。明
 末財政困難。清朝の財政制度。
 哲學史。周代以上の哲學。周末戰國の諸子。晋朝の清談。佛
 教思想の輸入。唐朝の學。宋朝の學。明清の學。
 文學史。支那文字の發達。儒教の六教。周末戰國の諸子。漢
 朝の文學。史學。經學。論策。南北朝の文學。唐朝の文學。
 詩賦。經學。史學。宋朝の文學。史學。道學。詩賦。金元二

朝の文學。戲曲。小説。明朝の文學。史學。道學。批評。清朝の文學。經學。史學。考證。技術史。黃帝、堯、舜の制作。禹の洪水。周の建築土木製造及び美術に關するの進歩。秦朝の諸大工業。南北朝佛教と共に發達したるの美術。唐朝の建築製造及び美術。宋朝の建築製造及び美術。元朝の諸大工業。明朝建築陶器及び美術の發達。工業及び美術の進歩に於ける清朝と前朝との比較。以上臚列したる所は只其概略を示したるのみ。然れども支那歴史の研究法を進むるの方針としては聊か亦参考の一助たらんのみ。

支那文明史論終

明治二十九年十一月十四日印刷
 明治二十九年十一月十七日發行

定價金三拾五錢

著者 中西 牛郎

發行者 大橋 新太郎

印刷者 玉 置 與 十 郎

印刷所 國 文 社



發兌元

東京市日本橋區
 本町三丁目

博文館

東京市京橋區宗十郎町十五番地

米國アーサー・スミス氏著 羽化生澁江保君譯

支那人氣質

全壹冊洋裝
近日刊行
正價參拾錢
郵稅六錢

目次

- 總論 ● 體面 ● 節儉 ● 力行 ● 禮義 ● 時間に頓着なきこと ● 不精密に頓着なきこと ● 誤解の才 ● 暗示の才 ● 柔軟的強硬 ● 愚蒙 ● 無神經 ● 外人を輕蔑すること ● 公共心の欠乏
- 保守主義 ● 安樂利便を度外視すること ● 活力の強壯なること ● 堅忍不拔 ● 澹然自逸
- 孝心 ● 仁惠 ● 社交的風波 ● 互相の責任并に法律を遵守すること ● 互相の猜疑 ● 不誠實
- 多神教、萬有教、無神論 ● 支那の實相并に現時の必要

本書は、二十二年間、支那に在留する米人スミス氏最近の著作なり。同氏は、此の多年の間、普ねく彼の國の都府村落を巡り、公平の眼を以て、具さに社交及び家庭の情態を觀察し、細大輯録して本書を作りたれば、本書は其自白の如く、支那人氣質の寫眞にして、其の氣風、性癖、長短、醜美歷々として面あたりに見るが如く、恰かも標本的支那人、紙上に躍るが如し。彼の東方問題を研究する實業家は勿論、苟くも國家の前途を憂ふる志士は、一讀せざるべからざるの良書なり

栗田 寬先生題辭 熊田子之四郎君著

支那近世史

全壹冊洋裝
紙數三百頁
特別金拾錢
郵稅四錢

目次

- 緒論 ● 清廷ノ起原 ● 太祖及ビ世祖 ● 聖世ノ治蹟 ● 世宗及ビ高祖ノ外征 ● 嘉慶ノ亂及ヒ回部ノ騷擾 ● 鴉片ノ戰爭 ● 長髮賊ノ亂 ● 英、佛同盟軍トノ戰爭 ● 大日本トノ關係 ● 清佛戰爭 ● 天津條約 ● 國政 ○ 政府組織 ○ 賦稅。附、度、量、衡。○ 內治 ○ 外交 ○ 刑法 ○ 學制 ○ 兵備信國民族籍 ● 學術 ● 宗教 ● 風俗 ● 殖産、通信 ● 地誌

熊田子之四郎君、多年清國の近世史に心を碎き其の一、治一亂一盛一衰の跡業、既に胸中に存じ、更に着實にして流暢、精密にして明白なる筆力を振ひ、本書即ち支那近世史を著す。秩序一貫、清祖以來の大小戰爭、政治、風俗、習慣、宗教、學術及び地誌等を述べ、殊に現今の學制軍制等を詳論したるものなり。故に清國の沿革を詳知せんとせば、此書を除きて他に明かにしたるものなし、請ふ此書に依り、東洋前途の爲め一大新策を講せらんことを望む。

● 谷口君著

支那小歴史

全壹冊 正價金拾二錢
郵稅一錢五厘

三島中洲先生校閱 山名善讓先生訓點

資治通鑑

全二百九十四卷 合七十冊
和裝美木上等日本紙印刷鮮明
正價金拾五圓〇通運料十五錢
特別廉價金九圓

温公の資治通鑑、周の威烈王に始まり、兩漢六朝、唐を経て五代に至り、後周の顯宗に終るまで、
歳を經る一千三百餘年、冊を重ぬる二百九十四卷、治亂興亡隆替盛衰の跡、炳然として火を見る
が如し。左國史漢の後、實に稊難き良史なり、校正綿密、印刷鮮明、從來行はるゝもの、比に非
ず、幸に瀕覽の榮を賜へ。

大槻東陽先生校訂

春秋左氏傳校本

石川鶴齋君校
全八冊 正價壹圓廿錢
郵稅拾八錢

註點 五代史
鮑山矢土勝之君訓點
全六冊 正價金壹圓
郵稅拾貳錢

全十五冊大判 正價金壹圓五十錢通運廿五錢
古の良史をいふもの必ず左國史漢を稱す先秦の
名文を擧るもの亦必ず先づ指を左氏に屬す、而
して此書は大槻先生が諸種の善本を集めて校訂
し且標註せられたるものなれば左氏の眞面目を
得たること天下此書の右に出づるものなし。

安藤定格纂修
廿二史言行略
全二十冊 正價貳圓廿錢
郵稅貳拾錢

近藤城君評註
十八史略評註
全七冊 正價七拾五錢
郵稅貳拾錢

紫山川崎三郎君著

新撰支那國史

全參冊洋裝
金字入上製
郵稅七拾五錢

上三皇五帝の太古より、下明清の近代に至るまで、治亂興廢の跡、盛衰變遷の狀、英雄の起仆、
文物の隆替、細大洩らさず、殊に其文章に至りては、紫山君特有叱風呵雷の雄筆にして、字々悲
壯、句々慷慨、一掃し來れば實に手を解くに忍びざるものあり、其評論に至りては、射天貫地の烟
眼を以て大局を達觀し、又皮肉を穿つ、一閱し去れば、東洋の形勢瞭として目に在り、今や天下の
風潮は滔々として太平洋裏に向て吹き來る、政治家たるもの、文學家たる者、皆な東洋の形勢を詳
かにせざる可らず、此時に當て天下懷憂の士何ぞ速に一本を購はざる。

増田岳陽先生校 藤田言梁先生編

中等教育支那史

全七冊木版
和裝美本
正價七十五錢
郵稅十二錢

十八史略は良書なれども元以下を飲けり、此書は太古より清の光緒五年(明治十二年)までを、編
年体にて記せり。文章は平易なる漢文を用ゐて繁簡宜きに適ひ、支那歴史の巨擘なり。

英國ロバートマツケンジー氏原著
文學士幸田成友君譯述

十九世紀史

全壹冊大判
紙數六百頁
正價五十二錢
郵稅拾二錢

十九世紀は多事の時代なり、故に十九世紀の歴史は最も趣味あり、ウオタールーの野戦の如き、トラファルガーの海戦の如き、セバストポールの攻圍の如き、セダンの役の如き、米の南北戦争の如き、動天驚地の事蹟ならざらん。隨て各國政體の變更、社會の改新、枚擧に遑あらず、其人物には、ナポレオンあり、ビスマルクあり、カプールあり、グラッドストーンあり、其の他群雄を接して出で、以て世界の舞臺に大活劇を演じたり、之を時に同諸般の學術大に其歩を進め、汽船汽車電話の發明、攝影印刷等技術の發達ありて、文化駁々として底止する所を知らず、而して自由の主義は一般に普及せんとす、十九世紀は實に全世界をして舊來の面目を一變せしめたる者なり、今やこの世紀も餘す處、僅々四五十年にして直ちに二十世紀に入らんとす。正に是れ過渡の時代、苟も天下の大勢に通曉せんとするものは、必ずやこの十九世紀史を讀まざるべからず、本書の原著者はロバート、マツケンジー氏にして、其聲價既に公論あり、譯文明快、また麻姑の爪を情めて痺處を搔くの感あり、請ふ一讀を吝じ勿れ。

獨逸ドクトル、レング、カーベル氏原著
理科大學學理士坪井正五郎君校閱
元外務省翻譯官關澄藏君譯

石版極彩色刷各種圖
入并ニ西洋木版密圖
百五圖挿入

人類及人種

全壹冊洋裝
金入上製
正價金壹圓
郵稅拾四錢

本書は獨逸のレング、カーベル博士の近著を譯述し、本邦人類學の泰斗たる坪井學士之精密なる校訂増補を経たるものにして、坪井學士の緒言の要に曰く、「此書全編を三部に分ち、初の二部には、人類全躰に關する論を述べ、終の一には、諸人種に關する事を記す。人類學に志す者之を讀めば好階梯たり、他學を修むる者之を繕けば良參考書たり、普通讀者を覽れば娛樂の間自ら智識を擴むる具たり。斯く有益にして且つ邦文出版中未だ曾て其類を見ざる好書を、本邦讀者に紹介されたる、譯者の功績實に大なりと、謂ふべきなり」と以て本書の價值を知るべし、而して精密なる圖畫夥多を挿入したれば、眞に智を擴め樂に供するに足るべし。

伯爵勝安房君題辭
農務局長藤田四郎君序文
米國ハリス夫人題詩
米山梅吉君著

先開國提督ペルリ

全壹冊洋裝 正價 金廿錢 郵稅 四錢
ペルリ肖像、同銅像、黒船の圖(寫眞銅版)挿入
苟も日本國史を經くもの、誰か米國水師提督彼
理の名を記せざるものあらんや、日本が二千五
百年桃源の長夢を一覺せしは、全く彼理が黒船
の浦賀に來れる時に在り。本書は多年米國に在
留せし米山氏が、群書涉獵の結果、西眼に映じ
たる開國當時の日本よりとぎ起し、米國が開國
先登者を出せし由來を尋ね、尙この先登者彼理
の經歷を詳叙し、彼が米國海軍に於ける功勞墨
西哥戰爭に於ける軍功等を網羅し、其の人物性
行に及ぶ

柏軒松井廣吉君著

支那三國時代

全一冊洋裝 正價金十二錢 郵稅四錢
三國志、水滸傳、西遊記は支那の三大奇書なり、但し三國志は
史の足らざるを補ふに當り、此の三國時代史は其智勇辨力を
知らしめ、而して其縱橫大勢を叙して英雄烈士の聯合與敗を記
すると、殆んど原を切して物を照すが如く、一々精確の事實を
は支那世中の最も壯麗大烈たる歴史として、極めて趣味な
り利益あるものなるべし、幸ひに愛讀を賜へ
支那漫遊者 安東不二雄君著

支那漫遊實記

全一冊洋裝 正價金拾錢 郵稅四錢
著者が健脚支那大洲を漫遊せし實見録にして、其風土、人情地
勢、習俗を詳細せしもの、隨所に親切、清國の事情悉く此一冊に
あり

文學 士三宅雄次郎君序文
敬議院副議長島田三郎君序文
殘 花 戶 川 安 宅 君 著

世界三大宗教

全一冊大判
洋裝美本
正價四十錢
郵稅六錢

釋迦基督孔子三聖肖像(寫眞銅版)世界宗教分割地圖大判二葉挿入
目次 佛教 ● 總論 ● 釋迦牟尼 ● 教義 ● 總論 ● 基督儒教 ● 總論 ● 孔子
● 弟子傳 ● 附錄 ● 回々教 ● 印 ● 以上

釋迦基督孔子の三聖及び其の教旨、傳道、系統等を叙し、旁ら回々教、婆羅門
教等に及ぶ文章雄麗にして結構に趣味多く、世界三大宗教の眞義を明かにし
て臺鑿の遺なし、今日社會の宗教を要する特に切なるものあり、本書の如き亦
社會に歡迎せらるゝを疑はず

SL
No. 11983

F-10-2

柏軒松井廣吉君著

英鴉片戰史

全壹冊洋裝
二百八十餘頁
正價金拾八錢
郵稅六錢

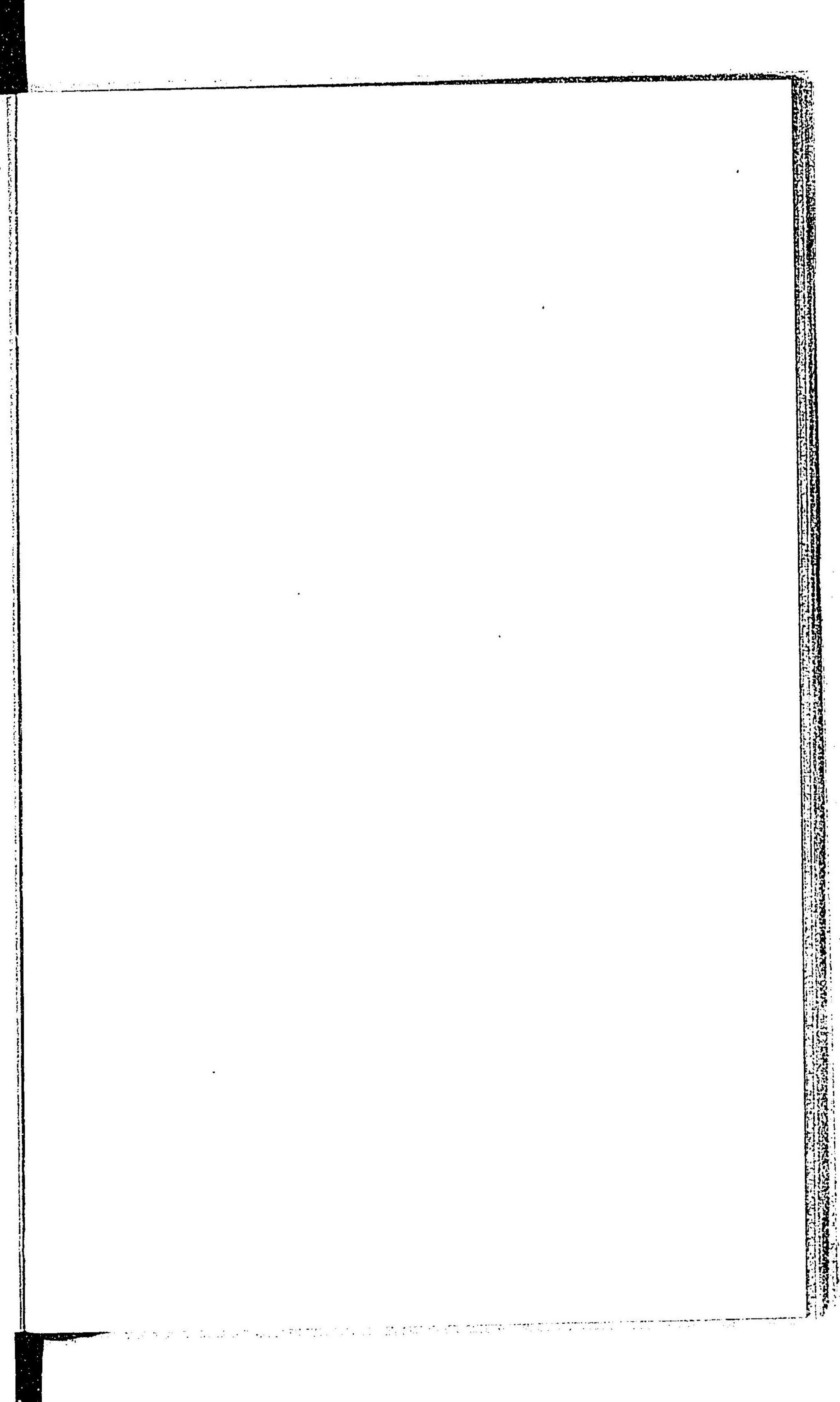
世界の一大國たる清國が文明國の軍に攻撃せらるゝと玆に四回、其の初めは實に英國との阿片戰爭にして、第四回は即ち日本との戦ひ是なり。本書は、清國の固陋尊大なるを、露國が巧みに支那を籠絡せると、英國に東洋に版圖を開拓せしより、勢力の撞着竟に一轉して鴉片戰爭となりし事情を發端とし、英國の出師、作取、暇圖、國論を始め、清國の防禦、權謀、外交の奇變等詳密明瞭を極む英清露の關係、局面の變動、勢力の消長、兵勢の強弱等一目にして明白なるべく、讀者獨り戰闘の壯觀に心目を快にするのみならず、又實に東方問題の真相を知解するの益あるべし。

柏軒松井廣吉君著

英佛聯合征清戰史

全壹冊洋裝
紙數五百頁
正價金拾八錢
郵稅八錢

英佛聯合軍が支那を征伐し、北京城下の盟をなさしめし顛末を詳叙し、兩軍の遠征隊組織、作戰方略等を掲げたる、完全なる戰史にして、且つ拮据の原由、外交の掛引、輿論の冷熱等をも細記しあり、兵士以外には、殆んど了解しがたき如きものにあらず、志士今日之を讀まば、特に限りなき妙味を覺えん。



10

222.004
N465A

003111-000-0

222.004-N465s

支那文明史論

中西 牛郎/著

M29

ACC-1140



